

新潟県臨床工学技士会設立 20 周年を記念して

新潟大学医歯学系 内科学第二 教授 成田 一衛

新潟県臨床工学技士会設立 20 周年を心からお祝い申し上げ、また新潟県の医療の充実と発展に貴会が設立以来今日まで果たされた多大な貢献に対し、心から敬意を表します。

近代医療の進歩において新たな医療機器や機材の開発・普及に負うところが大きく、貴会がその中で重要な役割を果たしてきたことはいまでもありません。私共が携わる腎不全医療においては、私が大学を卒業した 1983 年末で 5 万人を僅かに越えたに過ぎなかった我が国の透析患者数は、増加の一途をたどり今日その 6 倍に達しようとしています。これは腎不全医療が様々な面で大きな進歩を遂げ、腎不全になっても何年でも生きることを可能とする医療技術や医療制度、そして社会基盤を多くの先輩達が築き、今まで維持・発展させてきた証であります。特に透析膜や水質の改善、コンソールの性能の進歩は目を見張るものがあり、それらの臨床現場への導入と管理運営において、技士の皆様の果たしてきた貢献なくしては、この進歩は実現しなかったものと思います。

またこの度の東北大震災において、透析医療を求めて避難してきた多くの腎不全患者を新潟県で受け入れることを可能にしたのは、医師、看護師、事務系職員に加え、技士を含めた医療チーム全体の力であり、歴史ある我が新潟県の透析医療の絆の強さと懐の深さを、改めて実感する機会にもなりました。貴会をはじめ、関係の皆様は厚く御礼申し上げます。

医療の安全性と有効性に対する住民の要求の高度化、それと同時に高齢化に伴う疾病構造の変化に対応するためには、透析医療は今後益々の進歩が求められます。そのために必須となるのは、医療チームを構成する一人一人の知識と技術の充実向上とともに、相互の協調が重要になると考えております。

透析療法以外の分野においても、代謝、循環、呼吸、ME 機器管理において臨床工学技士に求められる業務は、今後更に多様化し複雑化していくことが予想されます。貴会の益々の発展を祈念致しますとともに、同じ医療チームの一員として今後も協力し合いながら新潟県の医療を進歩させて頂くことを改めてお願いして、私の祝辞と致します。